

「夕焼け姫」産地化へ部会

かんきつ新品種 東海で設立総会

県独自のかんきつ新品種「夕焼け姫」を栽培し、東海市での産地化・ブランド化を目指す市果樹振興会内のマルチ栽培夕焼け姫部会の設立総会が八月二十四日、市農業センターであった。

夕焼け姫は、他のミカンより紅色が濃い品種で、二〇一三年に品種登録された。市は、市農業センターで試験的に栽培し、一九九年度に加木屋町のほ場を整備して、本格的な試験栽培に乗り出している。部会は生

産者で構成し、今後、夕焼け姫を栽培して、統一的な品種として売り出していく。

総会には、生産者や県、市の担当者ら二十六人が出席した。荒谷芳興部会長が「東海市の特産品として、産地化・ブランド化になるよう努力して力を合わせていきたい」とあいさつした。鈴木淳雄市長が「日本一、世界一のミカンになるよう、心一つになって育てていってほしい」と期待した。

(福本英司)



夕焼け姫のブランド化に向けて開かれた設立総会＝東海市農業センターで